

[東証プライム市場：証券コード・6167]

# 2023年3月期第2四半期 決算説明資料

## 富士ダイス株式会社

代表取締役社長 久保井 恒之

**FUJILLOY**

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

# アジェンダ

---

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1. 会社概要               | P.02 |
| 2. 2023年3月期第2四半期 業績概要 | P.06 |
| 3. 2023年3月期 業績見通し     | P.12 |
| 4. 中期経営計画の進捗          | P.16 |
| 5. 株主還元・配当            | P.27 |
| 6. ESGの取り組み           | P.29 |
| 7. 参考資料               | P.31 |

---

# 01

## 会社概要

## 会社概要（2022年3月現在）

---

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 久保井 恒之
創業	1949年6月
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
従業員数	1,131名（2022年3月期末時点、連結）

## 当社の特長 ハイライト

### 超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持  
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア  
**30%以上**

### **開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉**

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制  
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績  
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数  
**約3,000社**

### 長期的成長を担う高い**研究開発力（技術力）**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発技術  
人手による技術を新鋭設備研究と工法最適化による現行技術との融合

**コア技術**  
・粉末冶金技術  
・超精密加工技術

### 財務基盤：黒字経営を継続し、**高い自己資本比率を維持**

ネットキャッシュ	7,729	百万円
フリーキャッシュフロー	1,541	百万円

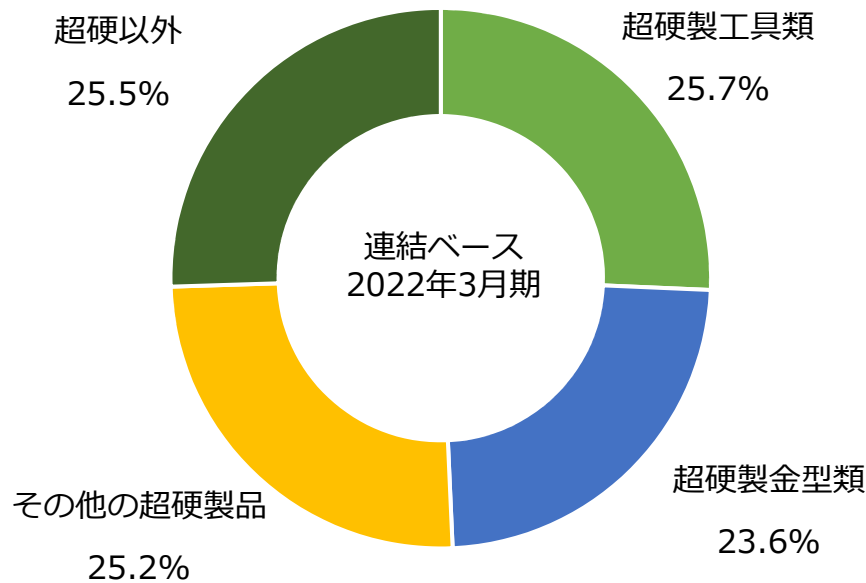
自己資本比率  
**76.1%**  
(2022年3月期末)

# 事業内容

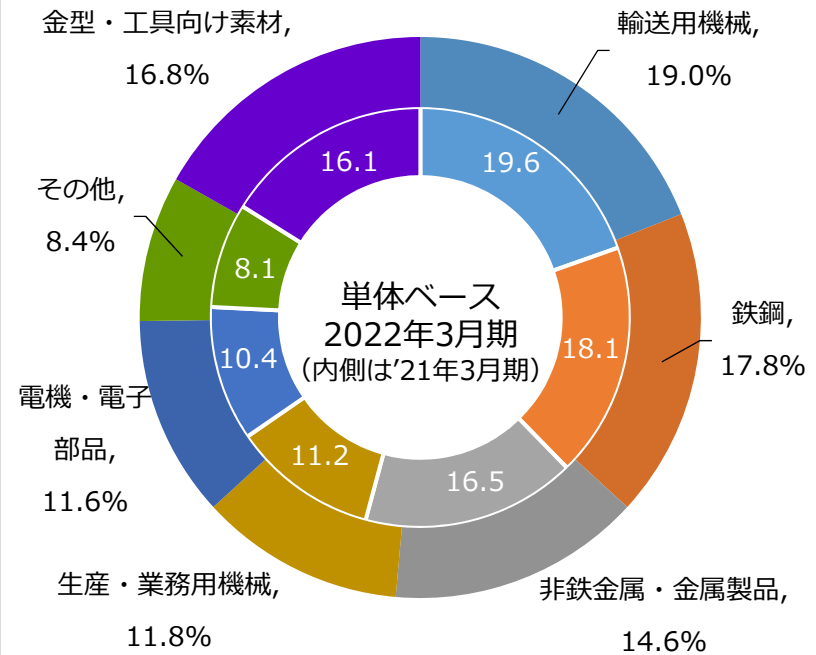
超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造

幅広い産業分野  
における顧客

【製品区分売上構成(%)】



【顧客産業分類区分売上構成(%)】



---

02  
2023年3月期第2四半期  
業績概要

## 2023年3月期第2四半期 ハイライト

連結売上高	8,367百万円	(前年同期比100.0%)
連結営業利益	578百万円	(前年同期比85.3%)

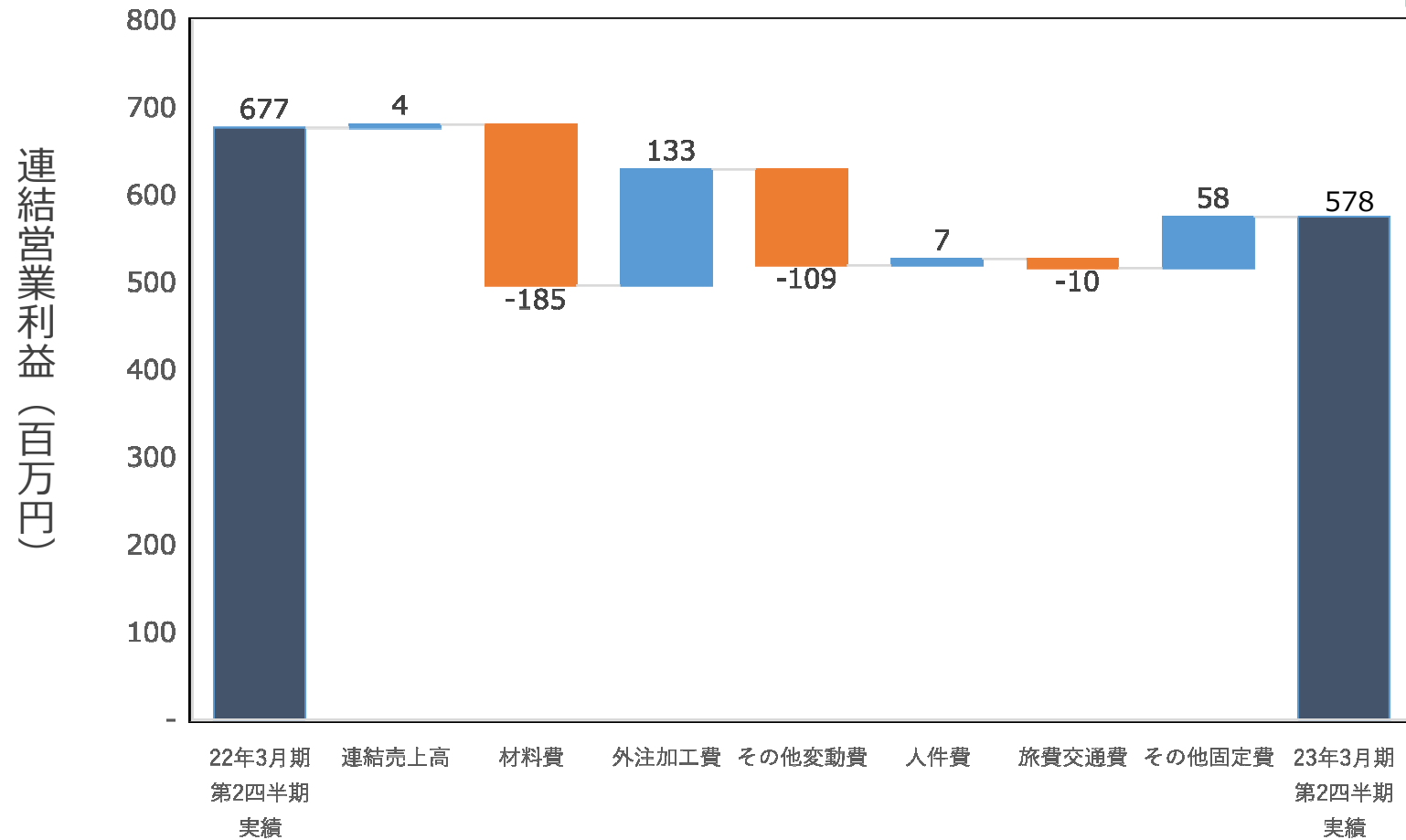
- 連結売上高は前年同期と同水準を確保したが、原材料高等により減益

売上高	増加要因	■ 半導体関連や自動車電動化関連の需要増
	減少要因	■ 中国（上海）のロックダウンによる超硬素材販売の低迷 ■ 粗鋼生産量の低迷等の影響を受け鉄鋼関連の需要減
利益	増加要因	■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果
	減少要因	■ 原材料や電力燃料の高騰によりコストが増加



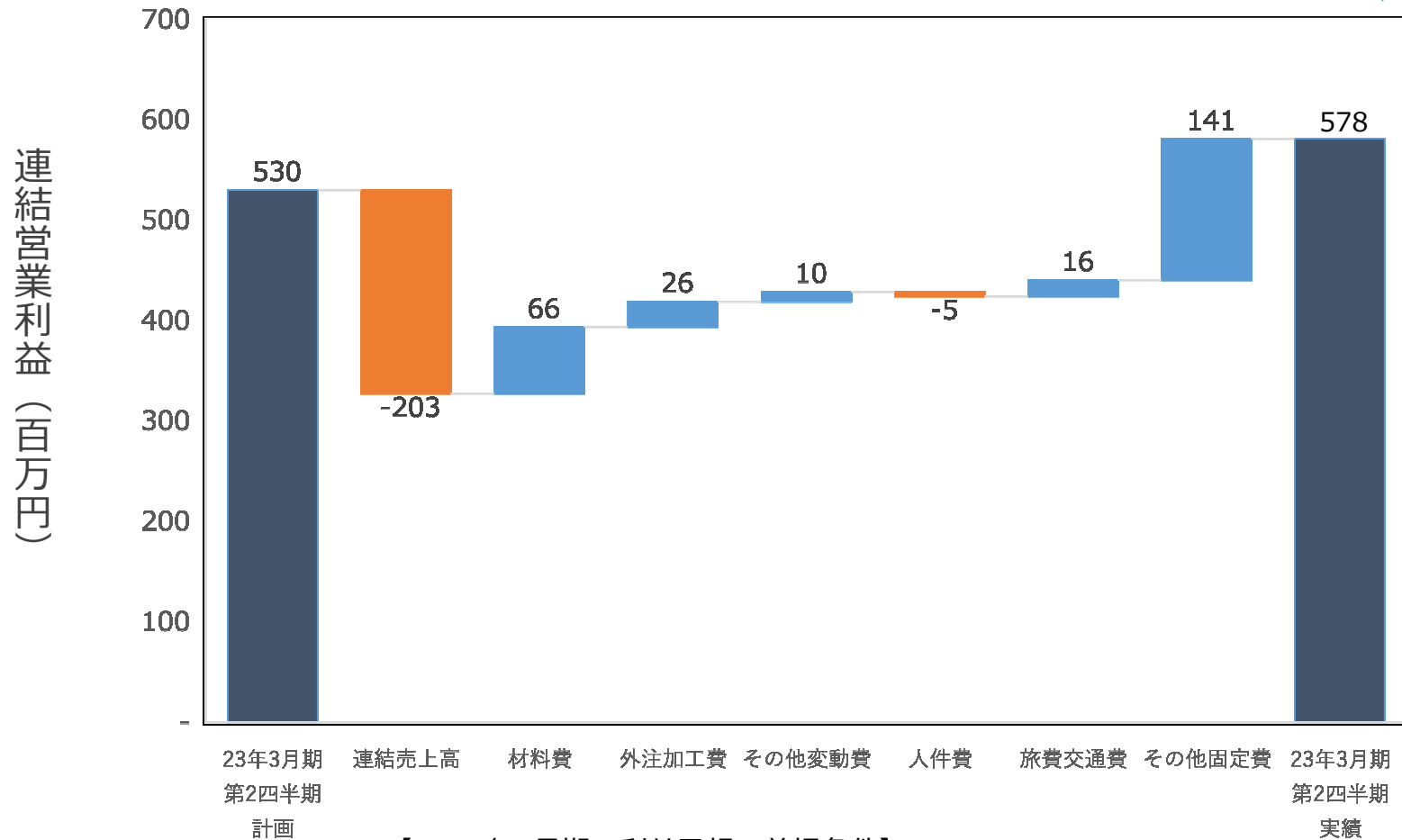
## 連結営業利益 増減要因（前年同期比）

営業利益：前年同期比▲約1億円



# 連結営業利益 増減要因 (計画比)

営業利益：計画比+48百万円



【2023年3月期 利益予想の前提条件】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：350ドル/10kg
- ②為替：120円/米ドル

## 連結損益計算書サマリー (前年同期比)

※下段は売上高に対する比率 (単位：百万円)

	2022年3月期 2Q累計	2023年3月期 2Q累計	前年同期比
売上高	8,363 (100.0%)	8,367 (100.0%)	100.0%
売上総利益	2,194 (26.2%)	2,149 (25.7%)	98.0%
販管費	1,516 (18.1%)	1,571 (18.8%)	103.6%
営業利益	677 (8.1%)	578 (6.9%)	85.3%
経常利益	716 (8.6%)	661 (7.9%)	92.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	505 (6.0%)	454 (5.4%)	89.9%
超硬製工具類	2,179	2,152	98.8%
超硬製金型類	1,987	2,076	104.5%
その他超硬製品	2,055	2,099	102.2%
超硬以外	2,140	2,038	95.2%

※ 下表は製品区分別の売上構成

## 連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	前期末比増減
流動資産	15,331	14,822	▲509
固定資産	10,048	10,458	410
資産合計	25,380	25,281	▲98
流動負債	4,383	4,046	▲337
固定負債	1,692	1,711	18
負債合計	6,076	5,757	▲318
純資産合計	19,303	19,523	220
負債・純資産合計	25,380	25,281	▲98

---

03  
2023年3月期 業績見通し

## 連結業績計画

- 原材料価格や電力燃料費の高騰によるコスト増を予想
- 下期より順次妥結が見込まれる販売価格への転嫁によりコスト増分の吸収を見込み、業績予想は据え置き

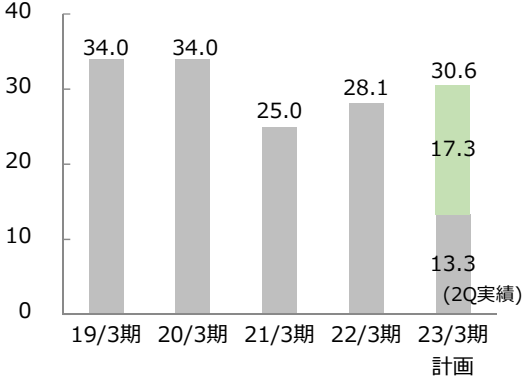
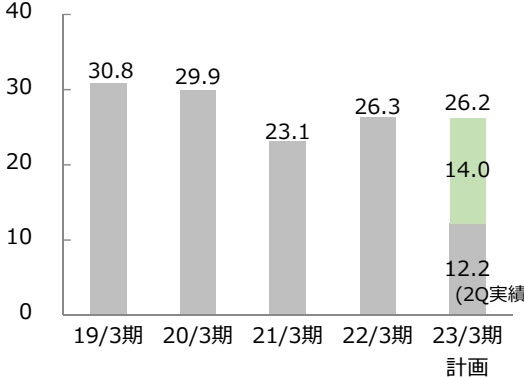
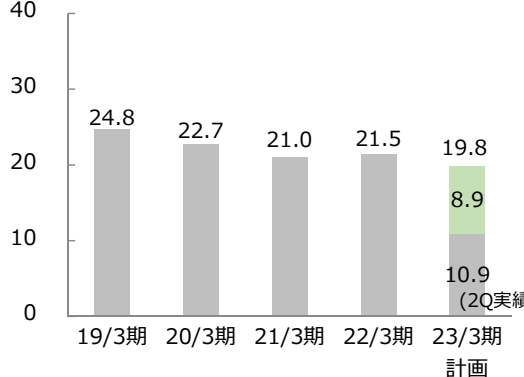



営業利益  
**11.4億円**  
(前期比102.3%)

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期 (計画)	前期比
売上高	16,874	17,360	102.9%
営業利益	1,113	1,140	102.3%
経常利益	1,202	1,210	100.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	790	820	103.7%

減価償却費	953	950	99.7%
設備投資額（有形・無形固定資産合計）	454	1,840	404.6%

# 主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2023年3月期）

	輸送用機械	鉄鋼	非鉄金属・金属製品																																																						
売上高（億円）	 <table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>34.0</td><td>34.0</td><td>25.0</td><td>28.1</td><td>30.6</td></tr> <tr><th>23/3期計画</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>13.3 (2Q実績) + 17.3</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	34.0	34.0	25.0	28.1	30.6	23/3期計画					13.3 (2Q実績) + 17.3	 <table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>30.8</td><td>29.9</td><td>23.1</td><td>26.3</td><td>26.2</td></tr> <tr><th>23/3期計画</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>12.2 (2Q実績) + 14.0</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	30.8	29.9	23.1	26.3	26.2	23/3期計画					12.2 (2Q実績) + 14.0	 <table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>24.8</td><td>22.7</td><td>21.0</td><td>21.5</td><td>19.8</td></tr> <tr><th>23/3期計画</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10.9 (2Q実績) + 8.9</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	24.8	22.7	21.0	21.5	19.8	23/3期計画					10.9 (2Q実績) + 8.9
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	34.0	34.0	25.0	28.1	30.6																																																				
23/3期計画					13.3 (2Q実績) + 17.3																																																				
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	30.8	29.9	23.1	26.3	26.2																																																				
23/3期計画					12.2 (2Q実績) + 14.0																																																				
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	24.8	22.7	21.0	21.5	19.8																																																				
23/3期計画					10.9 (2Q実績) + 8.9																																																				
製品イメージ	 <p>鍛造金型</p>	 <p>圧延ロール</p>	 <p>製缶工具</p>																																																						
事業概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産の低迷の影響を受け、上期の進捗率は43%</li> <li>下期は自動車電動化対応製品の取り込みを進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産の低迷の影響を受け、上期の進捗率は47%</li> <li>下期は電磁鋼板向け刃物関係で売上増を見込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>缶器金型が比較的好調に推移し、上期の進捗率は55%</li> <li>下期は缶器金型の需要の一服を想定し、上期に比べてやや減少を見込む</li> </ul>																																																						

# 主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2023年3月期）

	生産・業務用機械	電機・電子部品	金型・工具向け素材																																																						
売上高（億円）	<table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>20.0</td><td>21.4</td><td>14.3</td><td>17.4</td><td>18.7</td></tr> <tr><th>構成</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9.3 (2Q実績) 9.4 (計画)</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	20.0	21.4	14.3	17.4	18.7	構成					9.3 (2Q実績) 9.4 (計画)	<table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>16.6</td><td>14.6</td><td>13.3</td><td>17.0</td><td>19.2</td></tr> <tr><th>構成</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9.5 (2Q実績) 9.7 (計画)</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	16.6	14.6	13.3	17.0	19.2	構成					9.5 (2Q実績) 9.7 (計画)	<table border="1"> <tr><th>期</th><td>19/3期</td><td>20/3期</td><td>21/3期</td><td>22/3期</td><td>23/3期</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>25.8</td><td>22.8</td><td>20.6</td><td>24.7</td><td>25.3</td></tr> <tr><th>構成</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>11.9 (2Q実績) 13.4 (計画)</td></tr> </table>	期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	売上高	25.8	22.8	20.6	24.7	25.3	構成					11.9 (2Q実績) 13.4 (計画)
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	20.0	21.4	14.3	17.4	18.7																																																				
構成					9.3 (2Q実績) 9.4 (計画)																																																				
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	16.6	14.6	13.3	17.0	19.2																																																				
構成					9.5 (2Q実績) 9.7 (計画)																																																				
期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期																																																				
売上高	25.8	22.8	20.6	24.7	25.3																																																				
構成					11.9 (2Q実績) 13.4 (計画)																																																				
製品イメージ	<p>光学素子成型用金型</p>	<p>電池向け金型</p>	<p>金型・工具向け素材</p>																																																						
事業概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体装置向け、光学機器向け 製品が堅調に推移し、上期の進捗率は50%</li> <li>下期も上期同様の堅調を見込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車載用電池向け製品が堅調に推移し、上期の進捗率は49%</li> <li>下期も上期同様の堅調を見込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上海ロックダウンの影響による海外向け素材売上の減少等で上期の進捗率は47%</li> <li>下期はモーターコア金型素材の受注増を見込む</li> </ul>																																																						



---

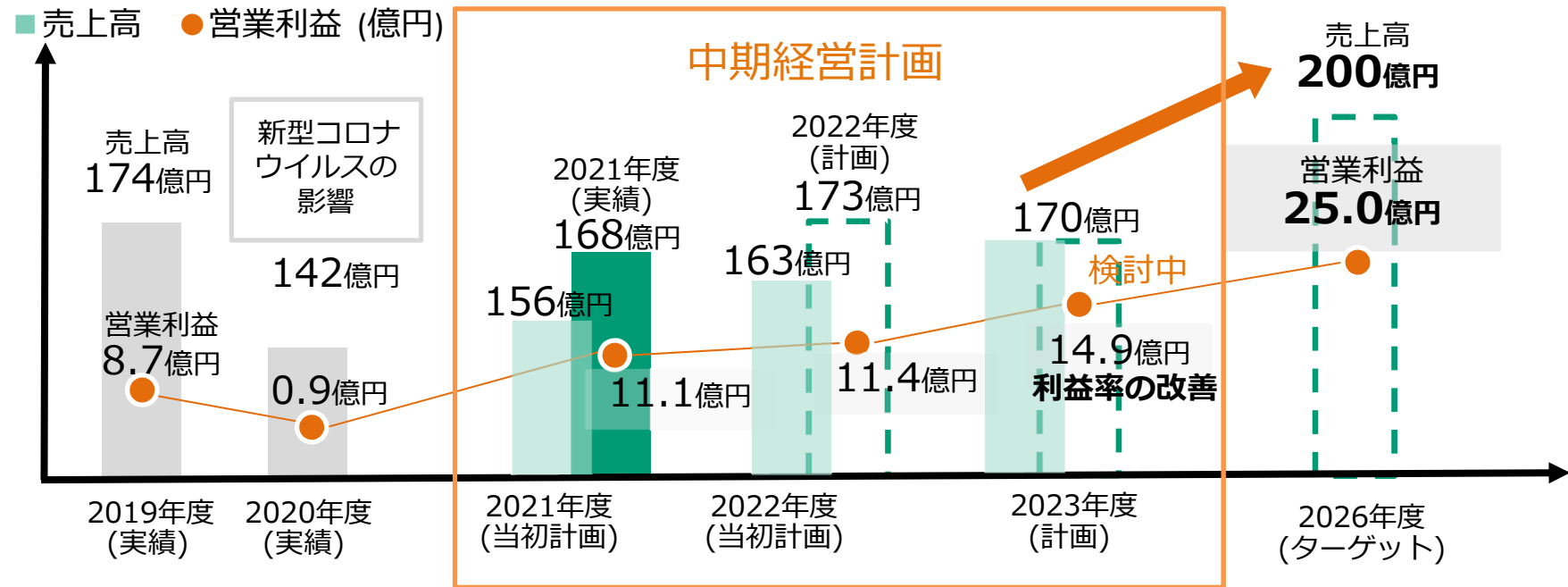
# 04

## 中期経営計画の進捗

# 中期経営計画（2021-2023年度）の位置づけ《連結》

【フェーズ1：2023年度】 連結売上高：170億円、営業利益：14.9億円

【フェーズ2：2026年度】 連結売上高：200億円、営業利益：25.0億円

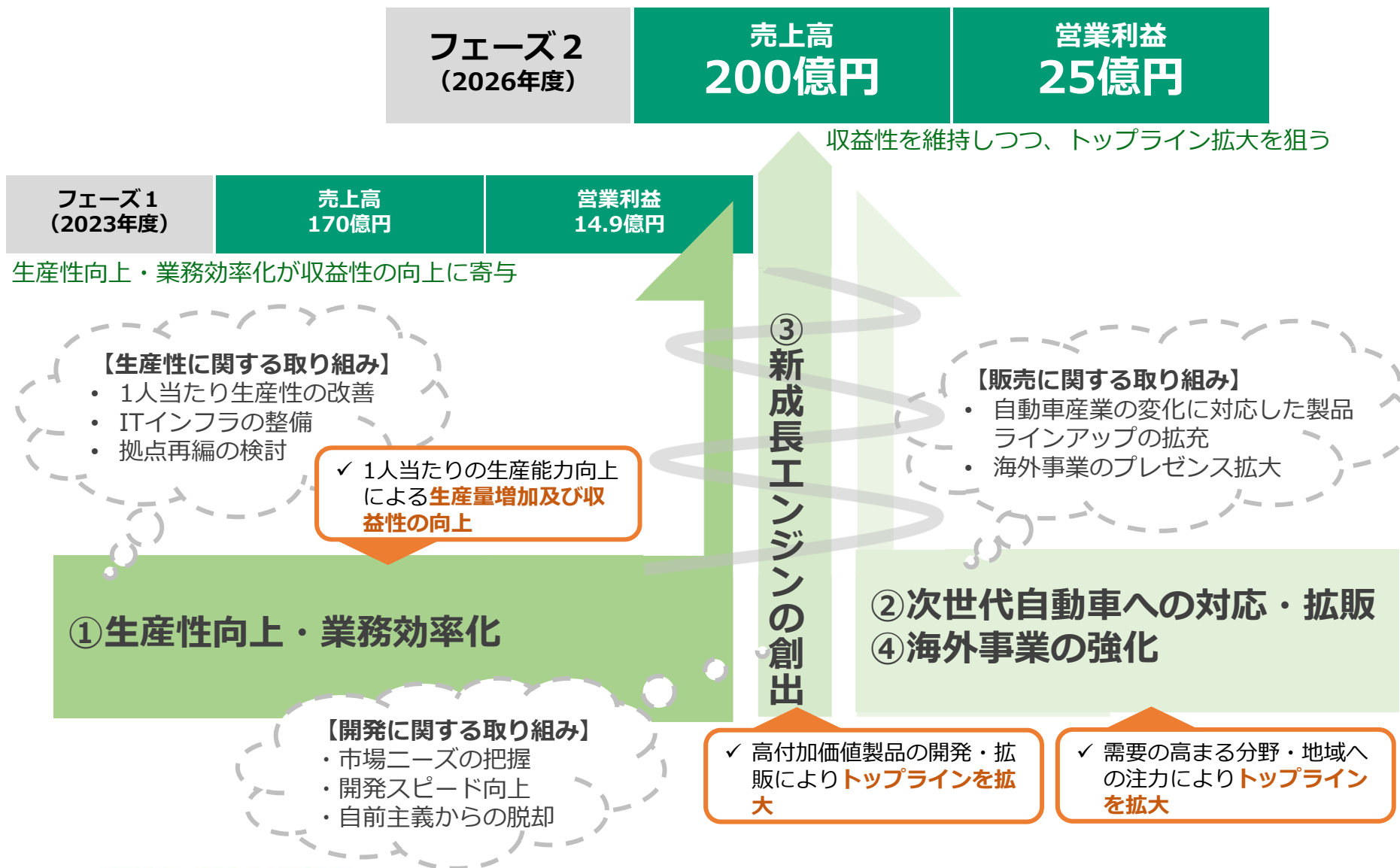


フェーズ 1

フェーズ 2

- ・ コロナ禍からの回復
- ・ 筋肉質な企業体質への転換
- ・ 次世代新製品・新事業の育成・深耕
- ・ 海外事業の強化
- ・ 売上高拡大、更なる利益(率)の拡大
- ・ **営業利益率12.5%以上**

# 中期経営計画の達成に向けて



# 中期経営計画（2021-2023年度）： 成長戦略・重要施策

～基本コンセプト～

## 筋肉質な企業体質への転換、中長期の成長基盤の構築

### 1 生産性向上・業務効率化

生産プロセスの改善、ITを活用した業務効率化により、利益が出せる少数精鋭による筋肉質な体質を目指す

- 外部コンサルタントを活用した生産効率の改善
- ITを活用した営業手法の導入
- 基幹システム、グループウェア刷新等のITインフラ整備
- 生産拠点の見直しによる拠点再編の検討
- 自立型人材の育成

### 2 次世代自動車への対応・拡販

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーとしての地位確立

- マーケティングによる選択と集中（モーター関連製品、電池関連製品は特に注力）
- 販売/生産/研究開発部門の三位一体となった取り組み
- 材料開発等による積極的な試作品の投入

### 3 新成長エンジンの創出

顧客の新たな価値創出につながるソリューション提供により、市場ニーズを先取りした高付加価値製品の開発

- マーケティング部門と製品開発部門の融合
- 大学や外部研究機関、取引先開発部門との共同開発などのオープンイノベーションの推進
- M&A、業務提携の検討

### 4 海外事業の強化

アジア地域を中心とした海外売上高の拡大、管理機能の強化による海外子会社の経営安定化

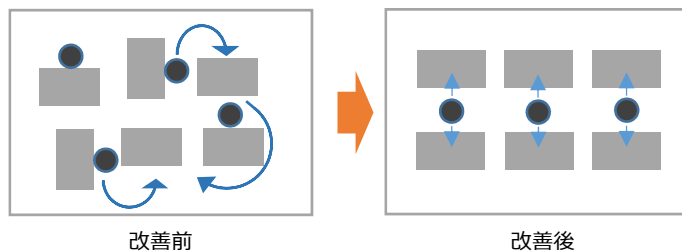
- ローカル人材の育成、オンラインを活用した販売活動
- 海外製造拠点（タイ、インドネシア）の生産性向上、技術・技能の向上によるアセアン地域における競争力向上
- 中国における販売拠点の拡大

# 1 生産性向上・業務効率化

高品質を維持しながら、より少ない時間で、より多くの製品を作ることを目指す。

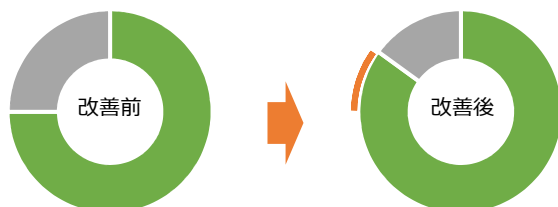
## 生産性を高めるレイアウト

レイアウト変更イメージ  
設備間の移動を少なくし、一人で複数台使用！



## 役割分担・時間配分の見直し

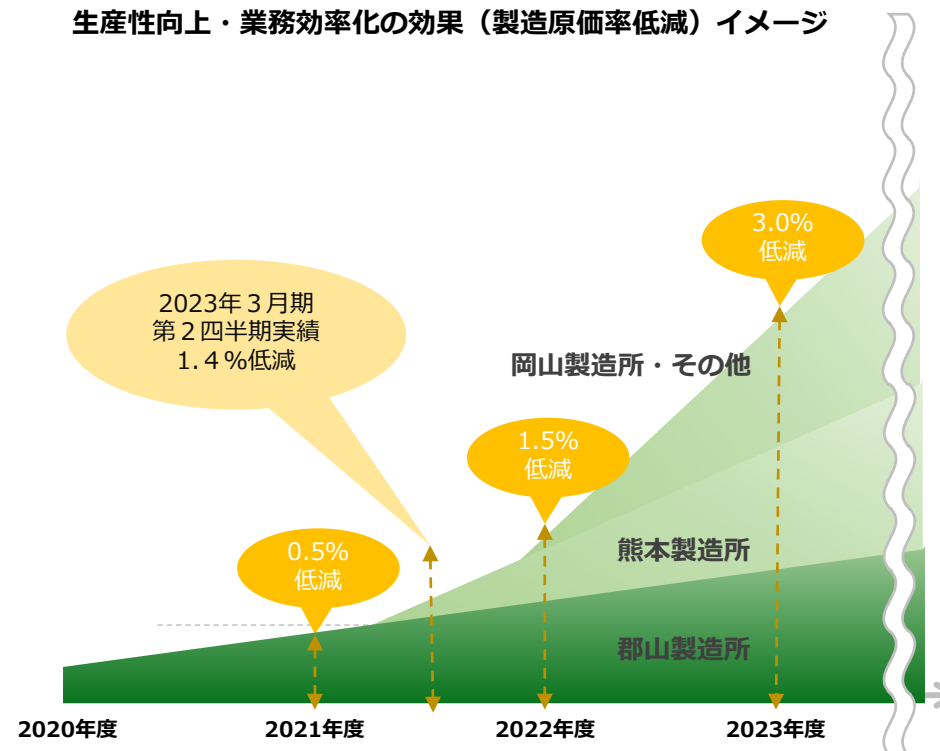
技術者の労働時間配分イメージ



■ 技能が必要な作業 ■ 技能が不要な作業

## 改善範囲を徐々に拡大

生産性向上・業務効率化の効果（製造原価率低減）イメージ



# 1 生産性向上・業務効率化

## 生産効率の改善

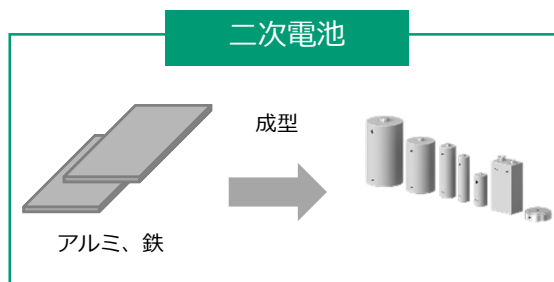
- 2023年度の目標値として、製造原価率3.0%低減(2019年度比)に向け、改善活動を実施。  
2021年度は、郡山製造所 1 部門において製造原価率を2%低減、全社での効果に換算する0.5%低減。
- 他の製造拠点に横展開し全製造部門での**製造原価率 【1.4%低減 目標達成率93.3%】**  
しかし、原材料、消耗品、電力高騰で費用増加、素材部門も含めた**生産部門全体の原価率は0.8%上昇**。  
【製造原価率（全社）：2021年度：0.5%（実績） 2022年度：1.5% 2023年度：3.0%の低減目標】

対象事業所	具体的な施策スケジュール		
	2021年度（実績）	2022年度	2023年度
<b>郡山製造所</b> 【2019.2Q比】	部門製造原価 2.0%低減  6S活動を中心とした作業環境の標準化  ※6S活動（職場環境改善活動） 整理、整頓、清掃、清潔、 躰、安全（セーフティー）	実績：製造原価率1.4%低減  管理指標、進捗管理、生産指示の見える化【デジタル化】  作業員別 OJT目標設定による技能向上	目標：製造原価率3.0%低減(全体)  搬送ロボットによる自動化検討  映像ソフト活用による技能伝承  加工条件向上
<b>熊本製造所</b>	作業分析  【研修・分析】	6S活動を中心とした作業環境の標準化  人・設備の最適レイアウト配置  複数台操作の拡充、操作指導	生産計画の精度向上  加工条件向上
<b>岡山製造所</b> <b>名古屋工場</b> <b>秦野工場</b>	・作業分析指導とリーダー教育 ・分析結果から改善活動内容決定	管理指標、進捗管理、生産指示の見える化【デジタル化】  作業員別 OJT目標設定による技能向上	集約製品の自動化検討  小集団活動（グループ別、個別改善活動の継続）

## ② 次世代自動車への対応・拡販 ～ 成長分野製品への対応 ～

高精度・長寿命が求められる、当社が優位な製品分野で更なる拡販をはかる

当社の強み

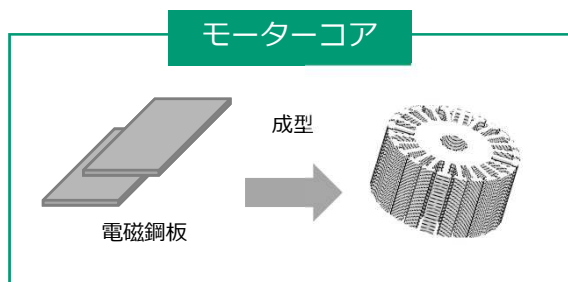


- ① 高精度な丸形状金型の加工技術
- ② 生産供給能力

xEV用二次電池



- 世界的なカーボンニュートラルへの対応が進み、自動車においては二次電池の需要が増加

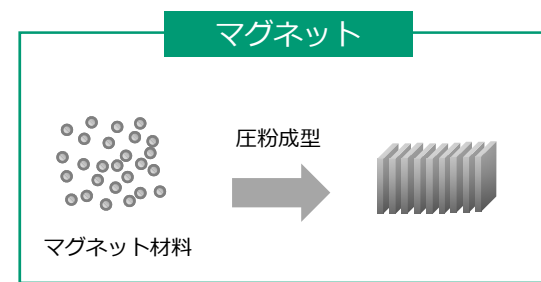


- ① 精密プレス用金型で培った、顧客ニーズに沿った材料開発技術
- ② 従来材種と比べ、高い硬さと高靱性を両立した新材料を開発

モーター



- 自動車のEV化により、動力源として駆動用モーターの需要が増加



- ① 豊富な非磁性超合金の材種ラインアップ
- ② 大型超合金の生産対応
- ③ 異型・丸形状金型の加工技術

マグネット



- 自動車のEV化による車載向け磁石に加え、HDD用モーターの需要も増加

最終用途

## ②次世代自動車への対応・拡販（進捗状況）

コロナによる景気減速やロックダウンの影響もあり一時需要減となるが、世界的なEV化の拡大により各分野の金型および金型素材の需要が堅調に増加

### 二次電池

- 車載用二次電池において、従来製品の増産と新製品（大型品）の需要が増加。
- 金型需要増加の見通しから、専用ラインを整備し、供給能力を増加する事で、量産体制を確立。

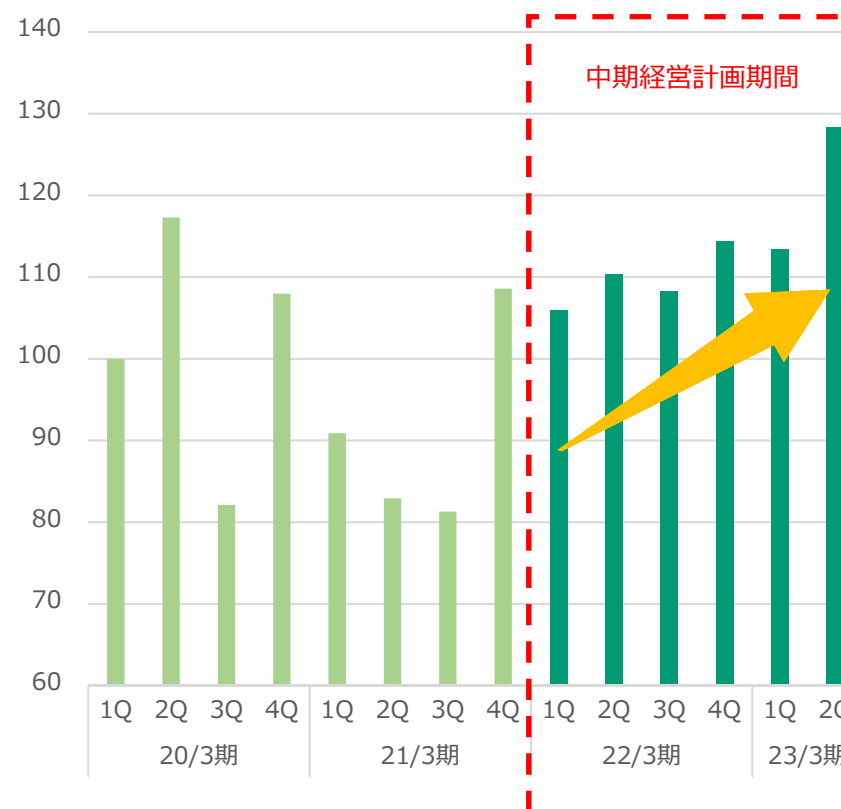
### モーターコア

- 電磁鋼板の抜き金型において、金型材として使用される超硬合金特性への要求が高まる中、新開発したVG48を市場投入。
- ラインアップを増加させる事で、顧客ニーズ対応し、使用条件に合わせた材種提案を実施。
- 更なるニーズ対応の為、新材料開発を継続。

### マグネット

- 車載用を中心にレアアース磁石の需要が高まり、国内、海外向けで金型および金型素材の需要が堅調に推移。

次世代自動車 重点拡販分野売上高推移  
(20/3期1Q=100)





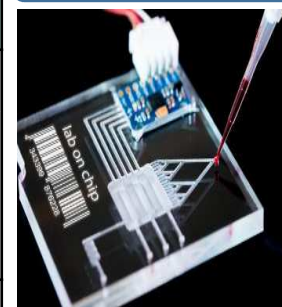
### ③ 新成長エンジンの創出 ～ 新製品開発・新技術開発 ～

#### 新製品開発・新技術開発

分析用デバイス成形金型の加工技術、省タングステン・コバルト合金の開発

分野	概要	進捗状況	販売時期(計画)		
			2021年	2022年	2023年
医療・化学	① 分析用デバイス成形型(マイクロ流路)	① 試作品評価中	---	→	→
	② DDS <sup>※1</sup> 成形金型	② 試作品評価中	---	→	→
環境・エネルギー	① CO <sub>2</sub> 還元用触媒	① 試作品評価中	---	→	→
	② 省タングステン・コバルト合金の開発	② 材料開発完了(特許出願)	---	→	→
光学ガラス	① 高熱膨張レンズ用金型	① 販売中	---	→	→
AM <sup>※2</sup>	① 造形技術の確立(3D造形技術による超硬合金への適用)	① 技術確立中	---	→	→

#### 分析用デバイス①



- 血液検査
- 水質検査
- ゲノム解析

#### 環境・エネルギー②

省タングステン・コバルト合金

**省資源×軽量  
×高硬度・高靱性**

一般的な超硬合金と比べ、希少金属のタングステン(W)とコバルト(Co)の使用量を大幅に削減、軽量でありながら、超硬合金に迫る硬さ・靱性を実現し、環境にやさしい材料です。

展示会用イメージパネル

- 産出国の偏在性
- 原料調達不安
- 為替の影響
- 調達コスト高

※1 Drug Delivery System : 体内の薬物分布を量的・空間的・時間的に制御し、コントロールする薬物伝達システムのこと。

※2 Additive Manufacturing: 素材となる金属を積層することで様々な形状を作り出す加工方法のこと。

※赤字は今回修正部分、下線はオープンイノベーションを実施中

---> 点線矢印: 試作・開発中  
 ——> 実線矢印: 販売中

# 3 新製品公開 → JIMTOF2022(工作機械見本市)出展

日程：2022年11月8日(火)～13日(日)

概要：2年に1度行われる国際的な工作機械見本市（来場者数11万人）

## サステナブル社会の実現に向け

■ 「FUJILLOYでモノづくりを変える」をコンセプトに新製品を発表

## カーボンニュートラル・省資源への対応

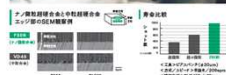
■ 省タングステン・コバルト合金、モーターコア金型用超硬合金



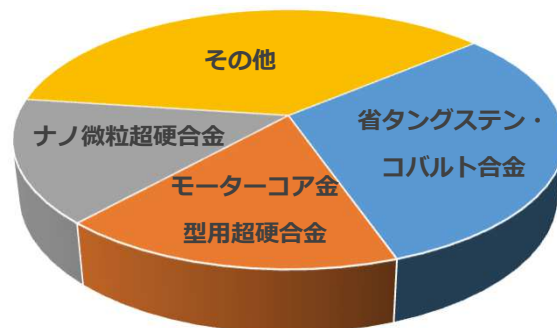
ナノ微粒超硬合金 FS06

### 抗折力×刃立て性

WC粒子を限界まで微細化し、硬さと抗折力を高いレベルで両立。ナノ微粒超硬合金によりシアーチップが必要な工具に適用し、刃物工具の長寿命化に貢献します。ニアネット形状及び大型製品への対応が可能。



来場者が注目した製品  
(商談来場者へのアンケート結果)



省タングステン・コバルト合金

### 省資源×軽量 ×高硬度・高靱性

一般的な超硬合金と比べ、希少金属のタングステン(W)とコバルト(Co)の使用量を大幅に削減。軽量でありながら、超硬合金に劣る硬さ・靱性を発揮し、環境にやさしい材料です。



## 省タングステン・コバルト合金 (サステロイ：ST60)

超硬合金の主原料であるタングステン、コバルトの使用量を大幅に削減した、環境配慮型、新材料。

## ナノ微粒超硬合金

- 材料粉末を限界まで微細化することで、硬さと折れにくさを高いレベルで両立した材料。
- 刃物工具の長寿命化に貢献する。

## モーターコア金型用超硬合金 (VG48)

- 耐摩耗性と粘り強さを高いレベルで両立した新材料。
- 打ち抜き時に高負荷が掛かるモーターコア金型に最適。

モーターコア金型用超硬合金 VG48

### 耐摩耗性×靱性

耐摩耗性と靱性のバランスを高いレベルで実現し、打ち抜き時の高負荷にも耐えられるモーターコア金型に最適な超硬合金。合金組織の最適化により、金型使用時の粒子脱落(粉砕)を抑制します。

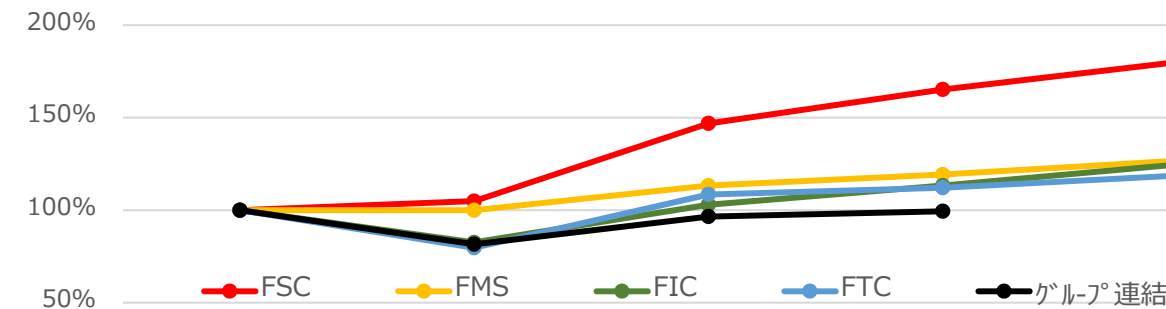
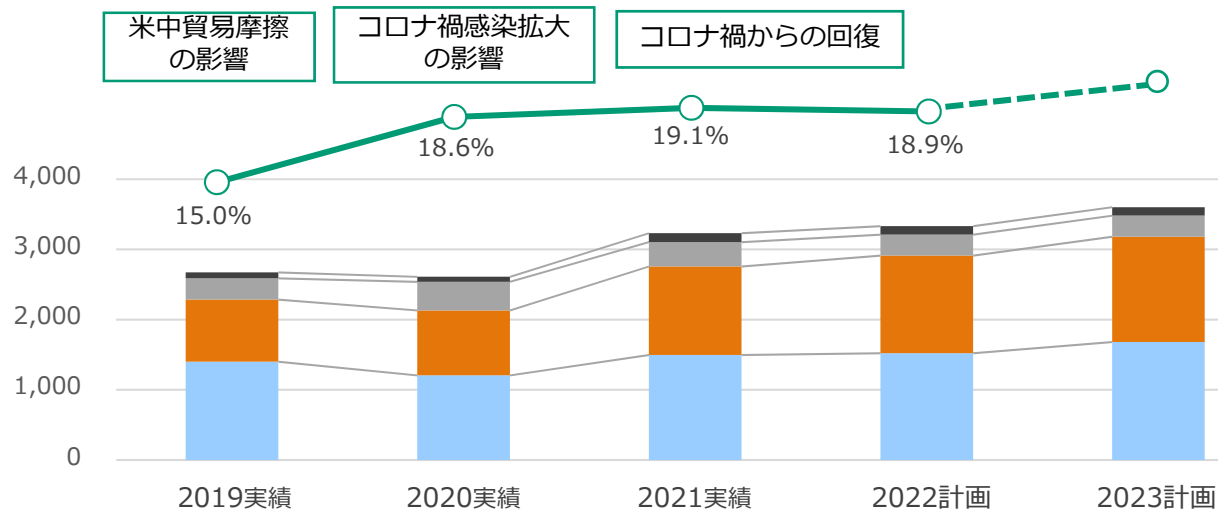


## 4 海外事業の強化

### アジア地域を中心とした海外売上高の拡大

海外売上比率目標  
20%以上

■ 東南アジア ■ 東アジア ■ 欧米 ■ その他 ○ 海外売上比率 (%)



### 海外子会社別概況

#### 富士模具貿易（上海）有限公司 (FSC)

- ・3月末から5月末に実施された上海ロックダウンの影響で拡販に支障
- ・中国市場の先行き不透明感継続
- ・潜在需要が見込まれる華南地区拡販の為に広州拠点設置準備中

#### Fujilloy Malaysia Sdn.Bhd. (FMS)

- ・主要な半導体業界が好調を維持
- ・行動制限解除により販売活動再開

#### PT.Fujilloy Indonesia (FIC)

- ・上海ロックダウンなどの影響で自動車二輪関連の生産が一時減少
- ・生産性及び技術/技能向上による競争力向上、新規開拓活動強化

#### Fujilloy (Thailand) Co.Ltd. (FTC)

- ・半導体不足などにより主要な自動車生産が一時減少
- ・異型複雑品の増強は順調に進捗中

---

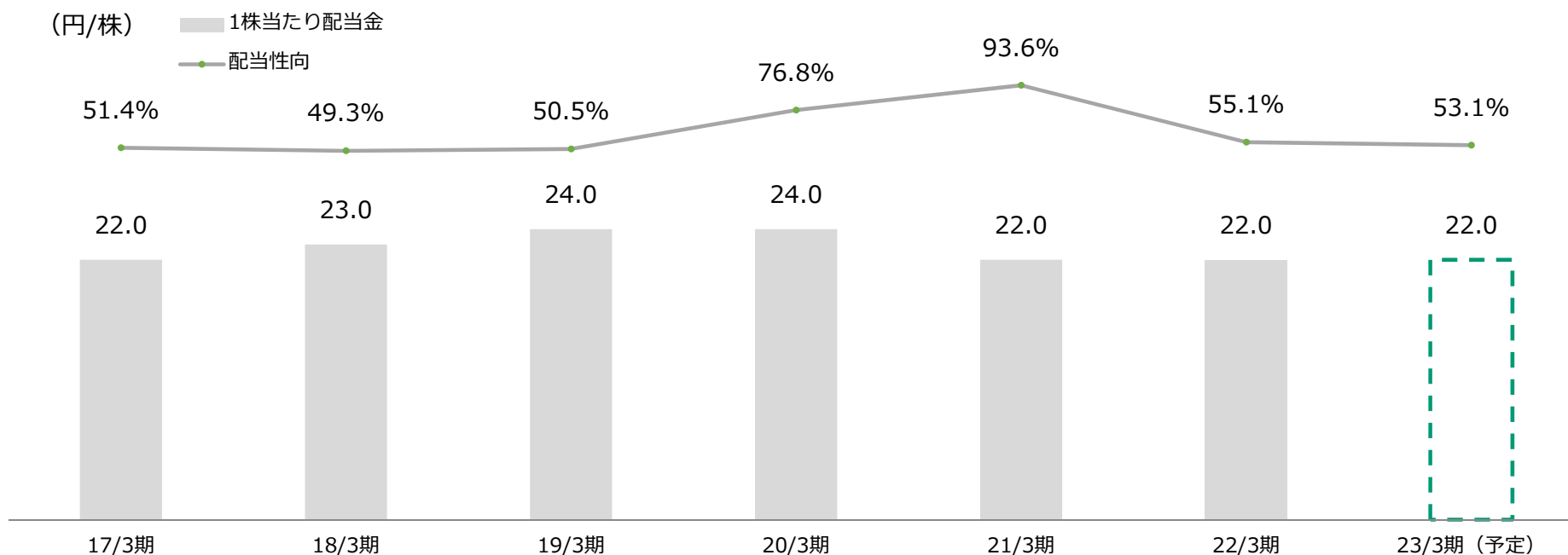
# 05

## 株主還元・配当

## 株主還元・配当

2023年3月期は一株当たり22円の配当を予定  
今後も株主の皆さまに対して、**安定した配当を継続**

年間配当金  
**22円**



---

# 06

## ESGの取り組み

# ESGの取り組み

当社グループは、「事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる」という企業理念に基づき、環境負荷軽減や地域との共生など持続可能な社会の実現に向けた企業統治や諸活動を行っています。

## Environment 環境

- 環境方針の策定・開示
- 環境マネジメントシステムの認証取得（2004年5月にISO14001認証を取得し、継続登録）による環境負荷低減への社内意識啓発と持続的な改善
- 環境調和型製品の提供（日本機械工具工業会による環境調和認定製品7種類）
- 環境配慮製品への切り替え（FSC認証紙やベジタブルインキなど）
- 社用車のエコカーへの切り替え（2022年3月時点で60%切り替え済み）
- 環境関連法令順守の維持・継続（排水、排気、騒音、廃棄物、化学物質等）
- フジロイ・タイランドがCSR-DIW受賞（緑化、ボランティア活動、低所得者就労支援）
- 省タングステン・コバルト合金の開発

## Social 社会

- 地域社会との共生（献血活動の継続、おたオープンファクトリー、小学校への出張授業）
- 福祉施設への寄付・慰問
- 品質マネジメントシステム認証取得（2002年11月にISO9001認証取得し、継続登録）による顧客満足度向上の持続的な改善
- 障がい者雇用の環境整備（障がい者農園を活用した野菜生産）

## Governance 統治

- 企業理念、大切にしている価値観、長期ビジョンの策定と公表
- コンプライアンス・リスクマネジメント対応（2か月に1回、コロナ対応含め対策会議を実施）
- コーポレート・ガバナンス報告書を適時更新し開示
- BCP(事業継続計画)の策定と定期的な見直し
- 指名・報酬委員会の設置
- 独立社外取締役を3分の1以上選任
- 譲渡制限付株式報酬制度導入（社内取締役対象）

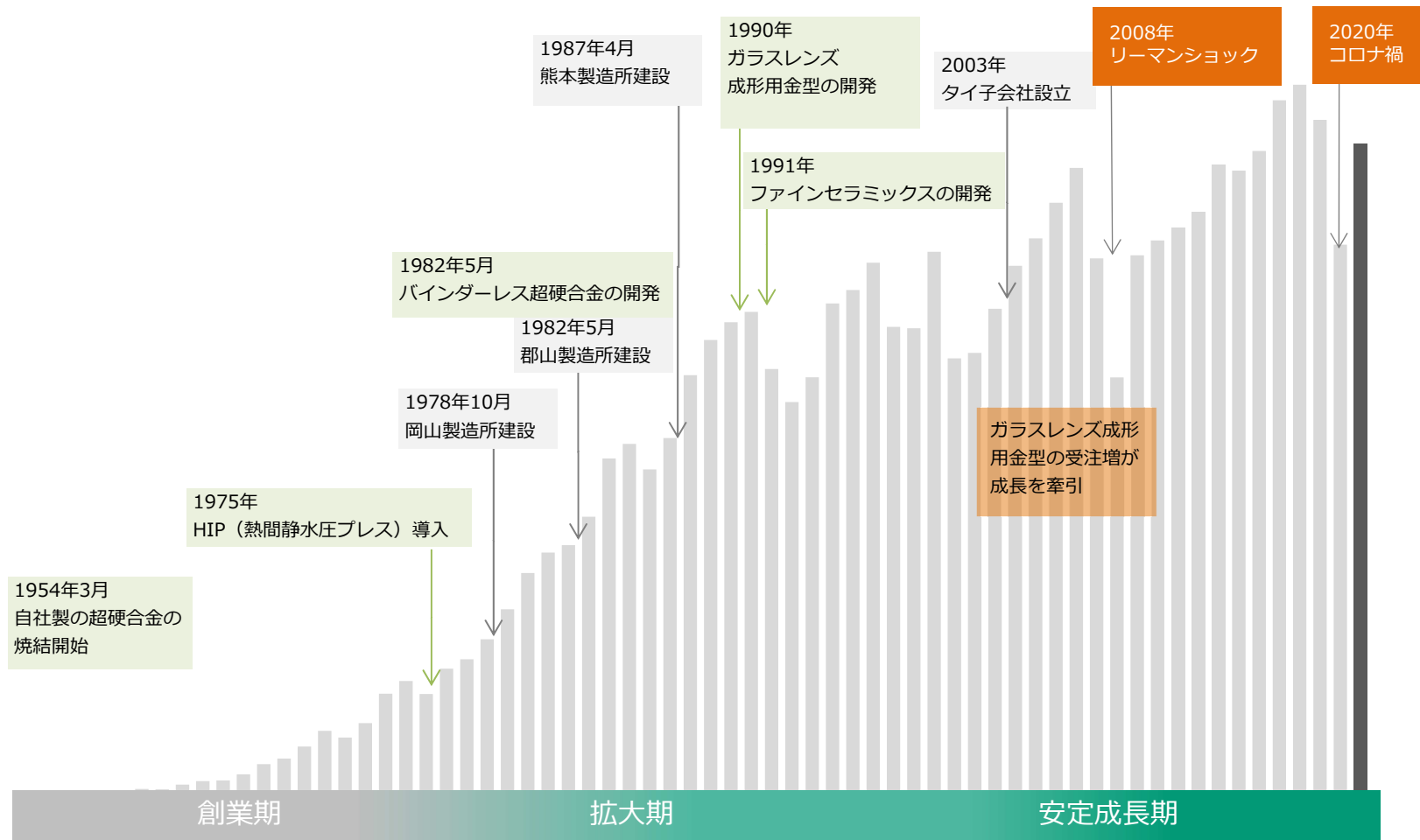
---

# 07

参考資料



# 主な沿革と売上高推移



(注) 2012年度以降は連結売上高

# 富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

## 企業理念

- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

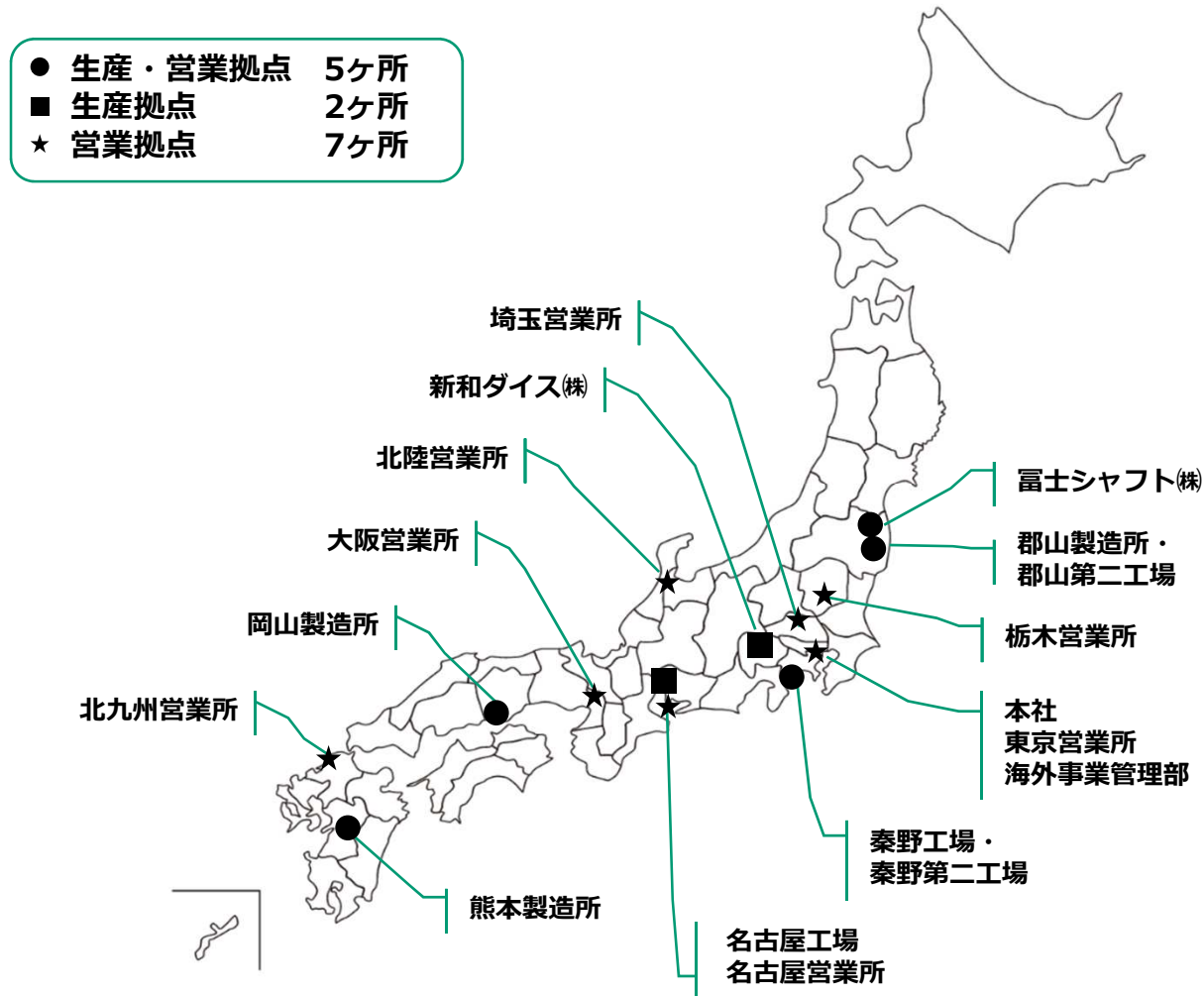
## 基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

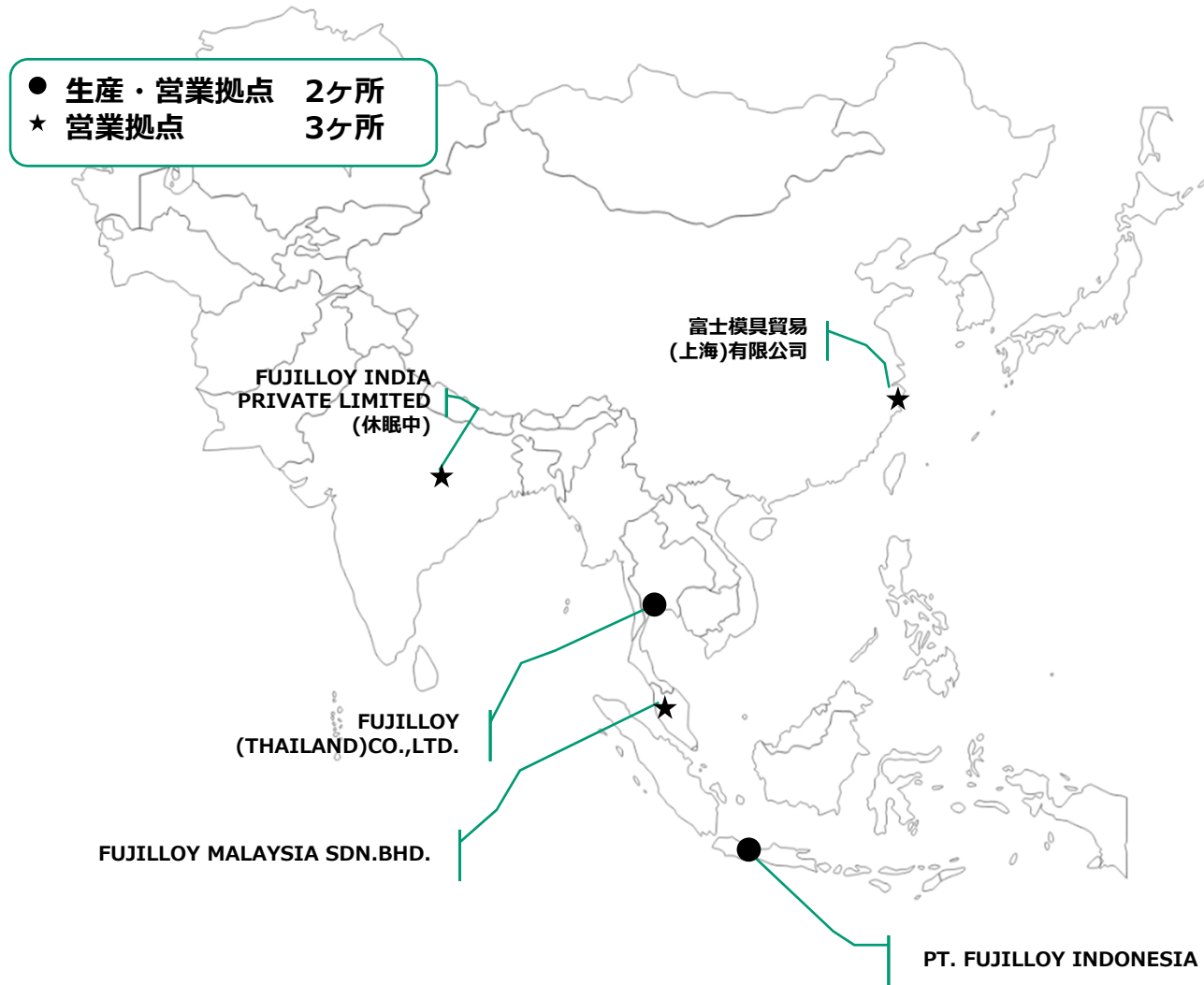
## 長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

# 拠点ネットワーク（国内）（2022年3月現在）



# 拠点ネットワーク（海外）（2022年3月現在）

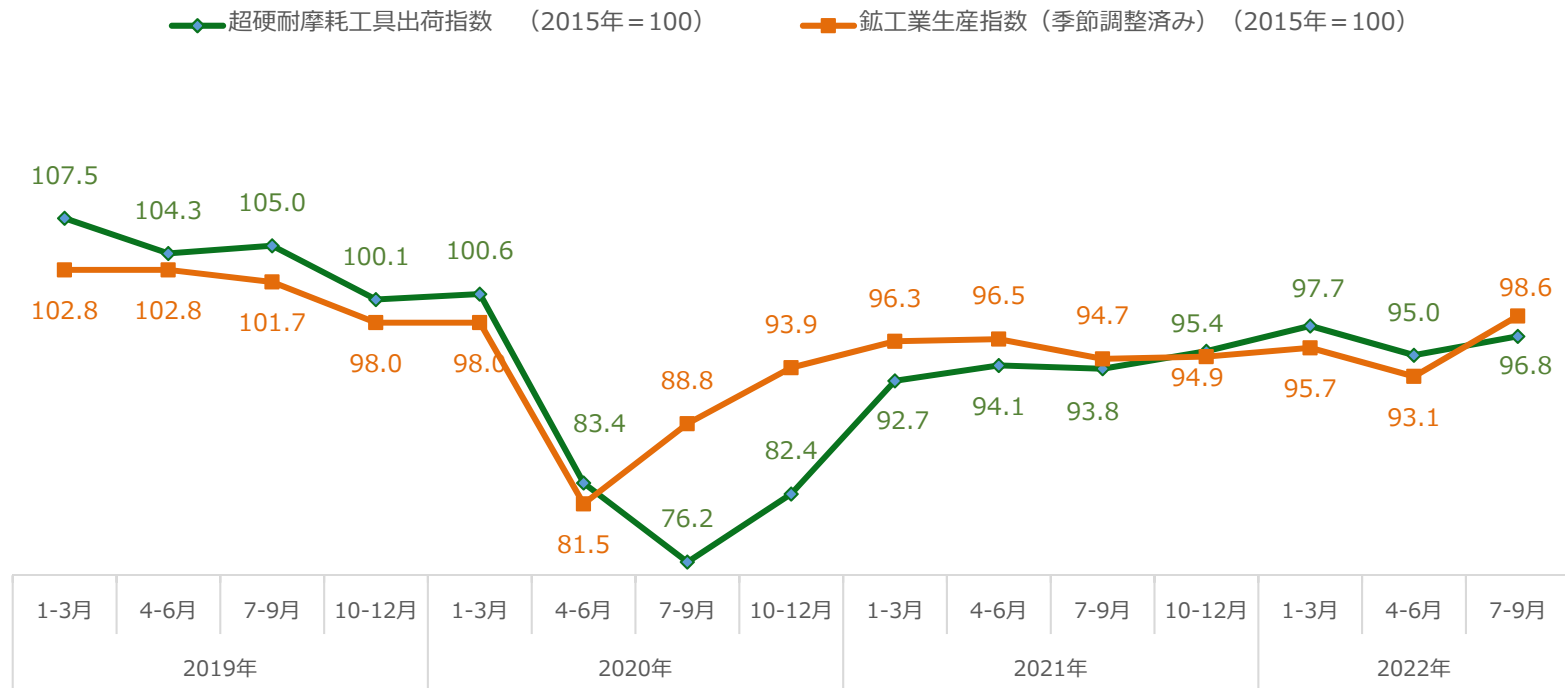


# 2023年3月期第2四半期までの事業環境

## 鈹工業生産指数と超硬耐摩耗工具出荷

2020年度と比較すると回復基調にあるが、まだ両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

### 鈹工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』  
経済産業省 『鈹工業指数』

# 代表的な製品例

## 引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

### 当社製品



ダイス・プラグ



ロール

### 成形部材



パイプ



線材



異形管

### 最終製品例



タイヤ・エアコン・  
鉄道架線他



インフラ設備

# 代表的な製品例

## 飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

## 光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラのレンズを生産する金型

### 当社製品



製缶工具

### 最終製品例



飲料缶・一般食缶

### 当社製品



光学素子成形用金型

### 最終製品例



スマートフォンレンズ カメラレンズ



監視カメラ

# 代表的な製品例

## 鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

## 高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

### 当社製品



鍛造金型

### 最終製品例



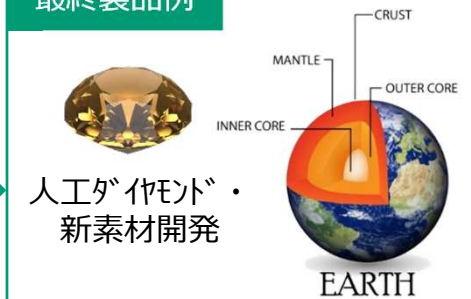
自動車・各種機械用部品

### 当社製品



高圧工具

### 最終製品例



人工ダイヤモンド・  
新素材開発

地球物理学研究



# 中長期的成長に向けた研究開発の方向性

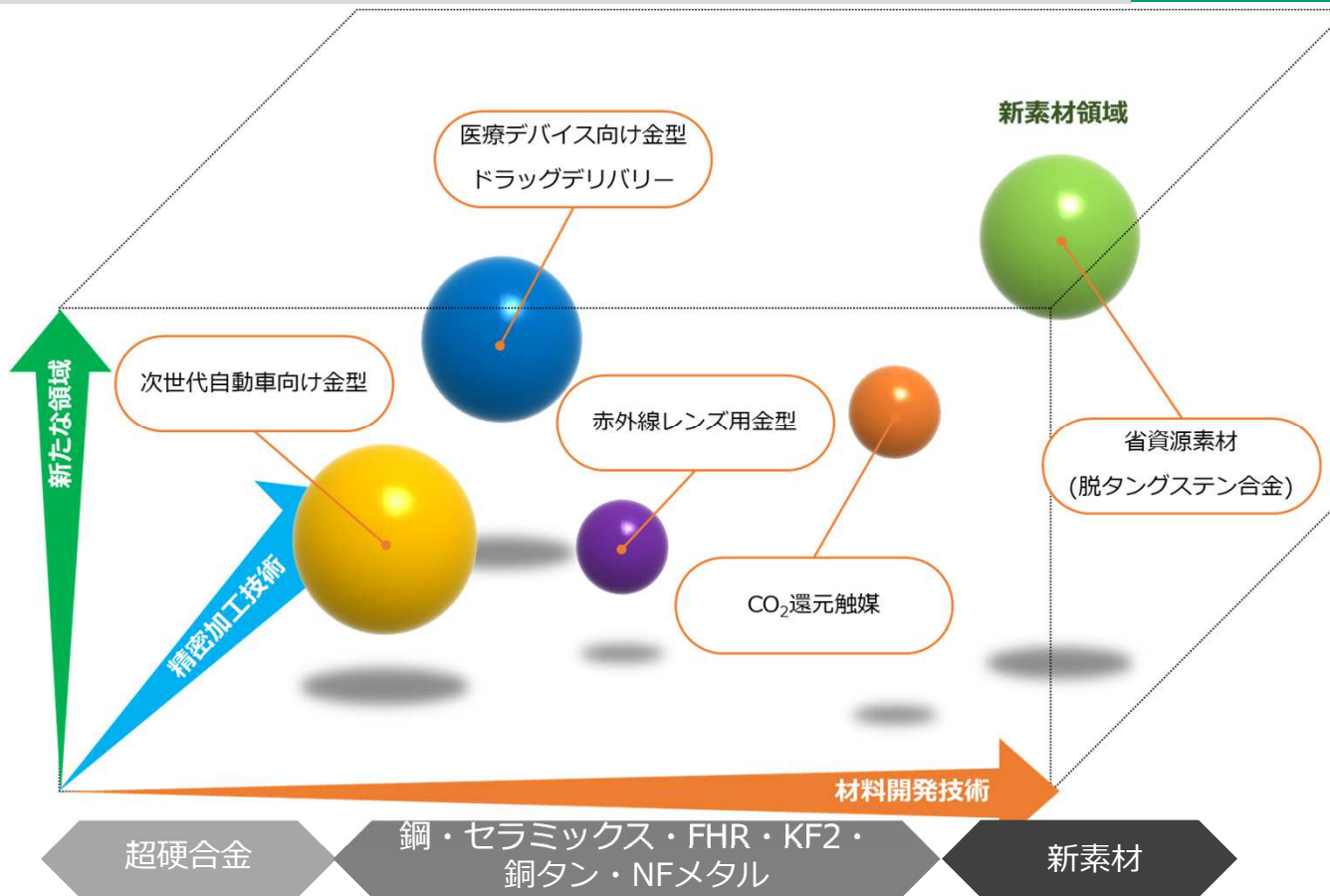
## 粉末冶金技術

超硬合金に限定しない、新材料開発の加速

## 超精密加工技術

現行技術の次代の先端へ：新鋭設備研究と工法の最適化

新成長エンジンの創出

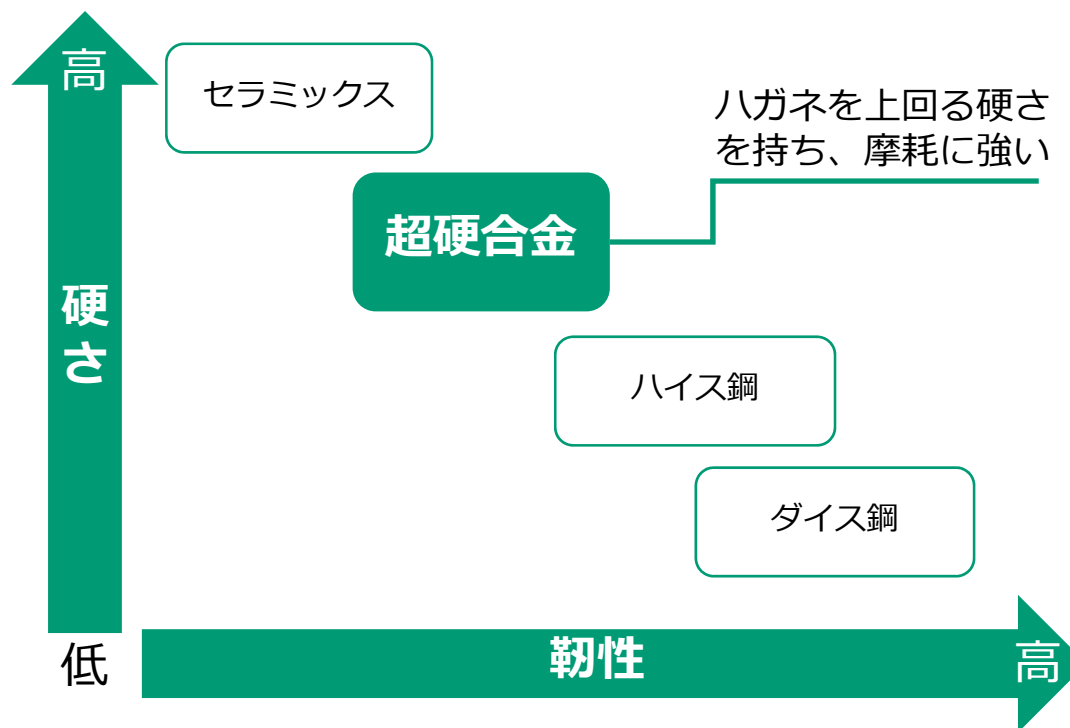
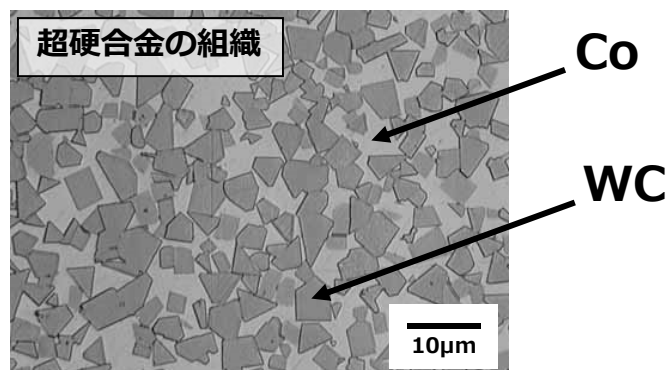


# 超硬合金とは

非常に硬く高耐熱性のWC、TiC、TaCなどを、韌性の大きいCoまたはNiでセメントした合金。

工業生産される金属材料の中で優れた硬さと圧縮強さをもつ。

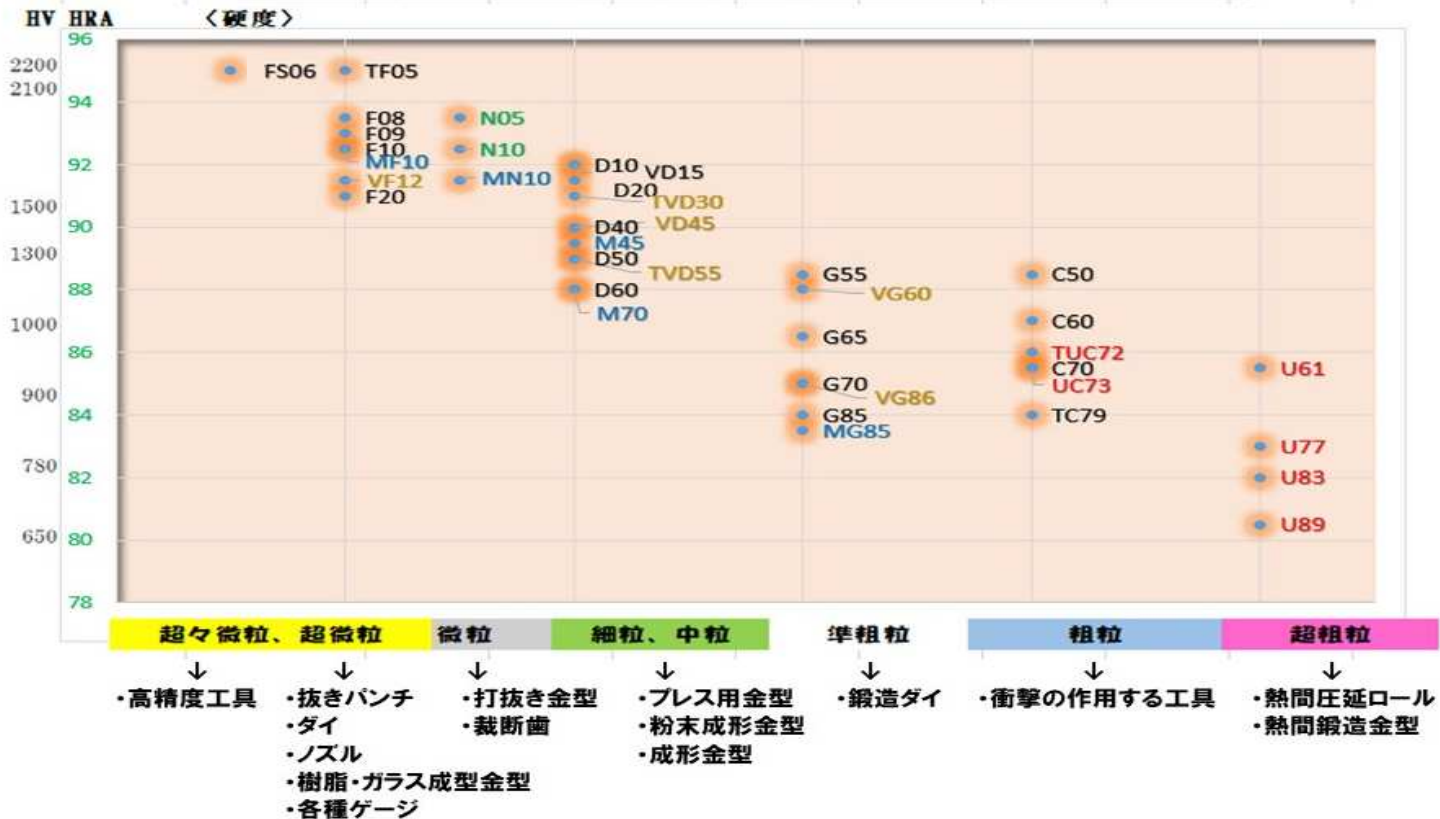
粉末冶金法で製造される。



# 当社超硬合金の特徴

富士ダイスが製造する超硬合金の材種特性のマッピング（WC粒度×硬さ）を示します。  
超々微粒から中粒、超粗粒までお客様の用途・目的に最適な粒子径や硬さの材種を提供しています。

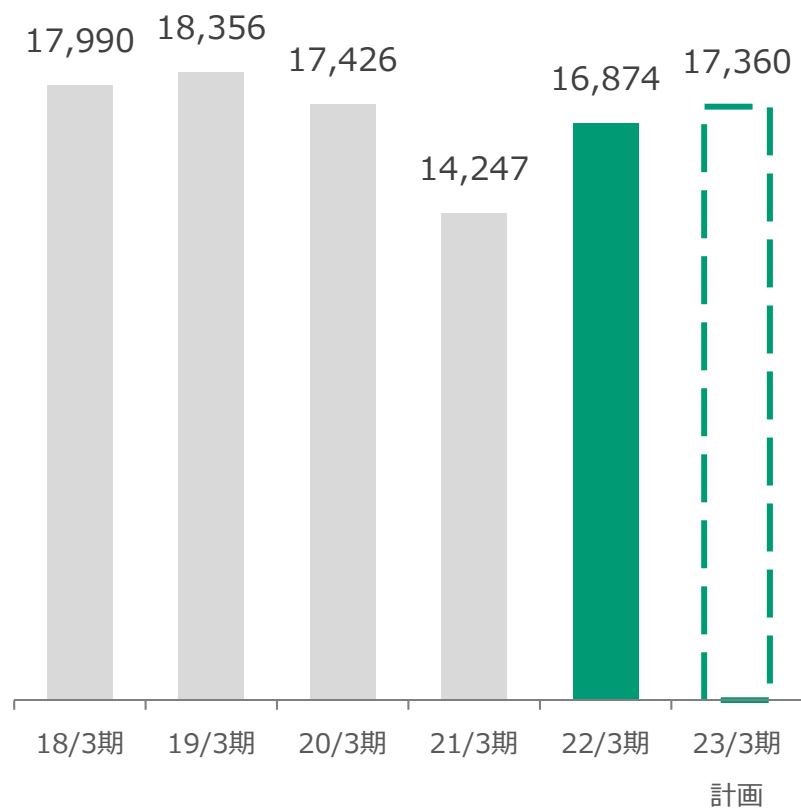
高性能材種の凡例	
緑記号	高い耐摩耗性が要求される場合に適しています
青記号	非強磁性及び耐食性が要求される場合に適しています。
茶記号	同水準の材種に比べ、耐摩耗性と靱性のバランスが1ランク上の材料です。
赤記号	高温での耐熱衝撃性が要求される場合に適しています。



# 業績の推移 1/3

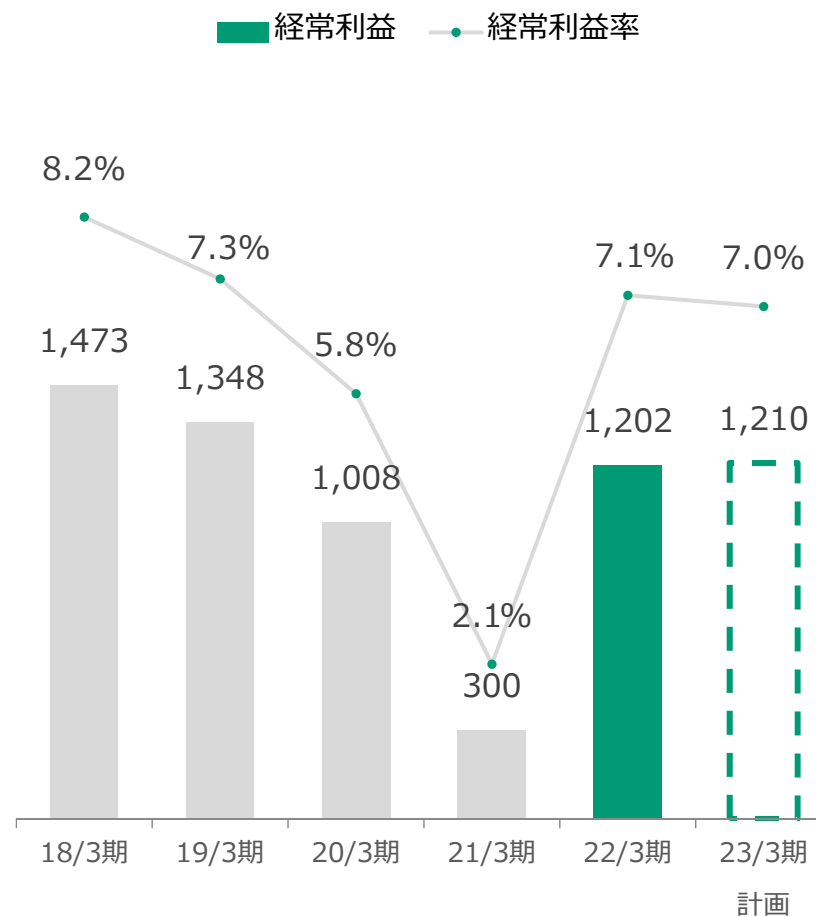
## 売上高

(百万円)



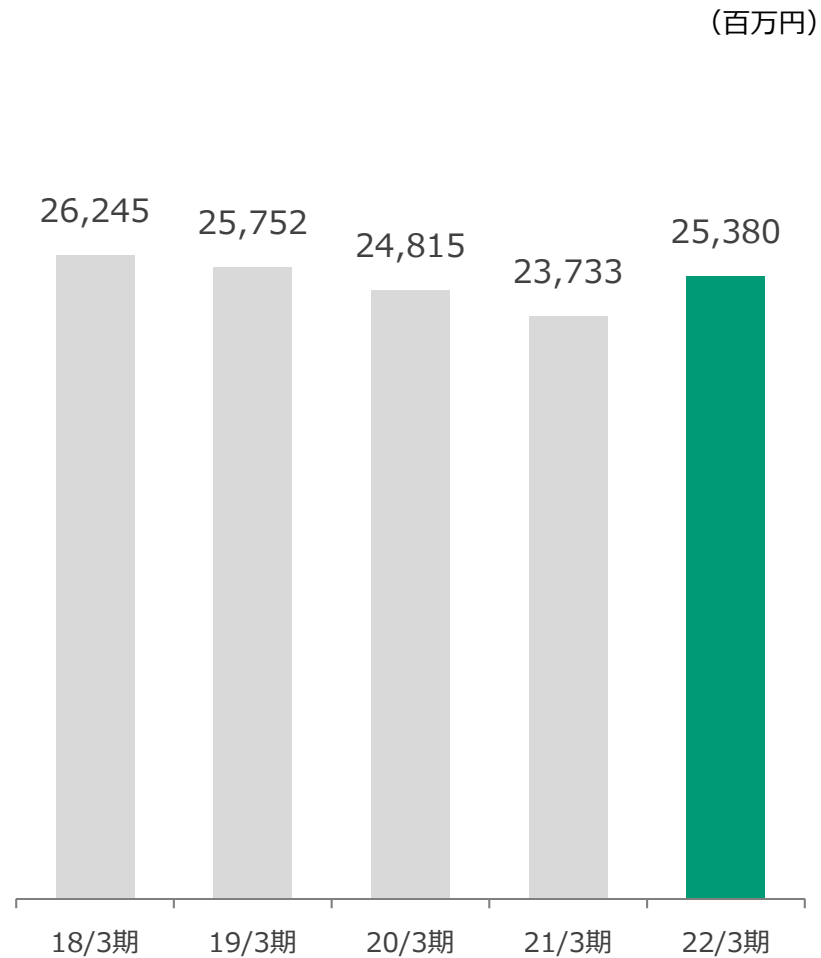
## 経常利益

(百万円)

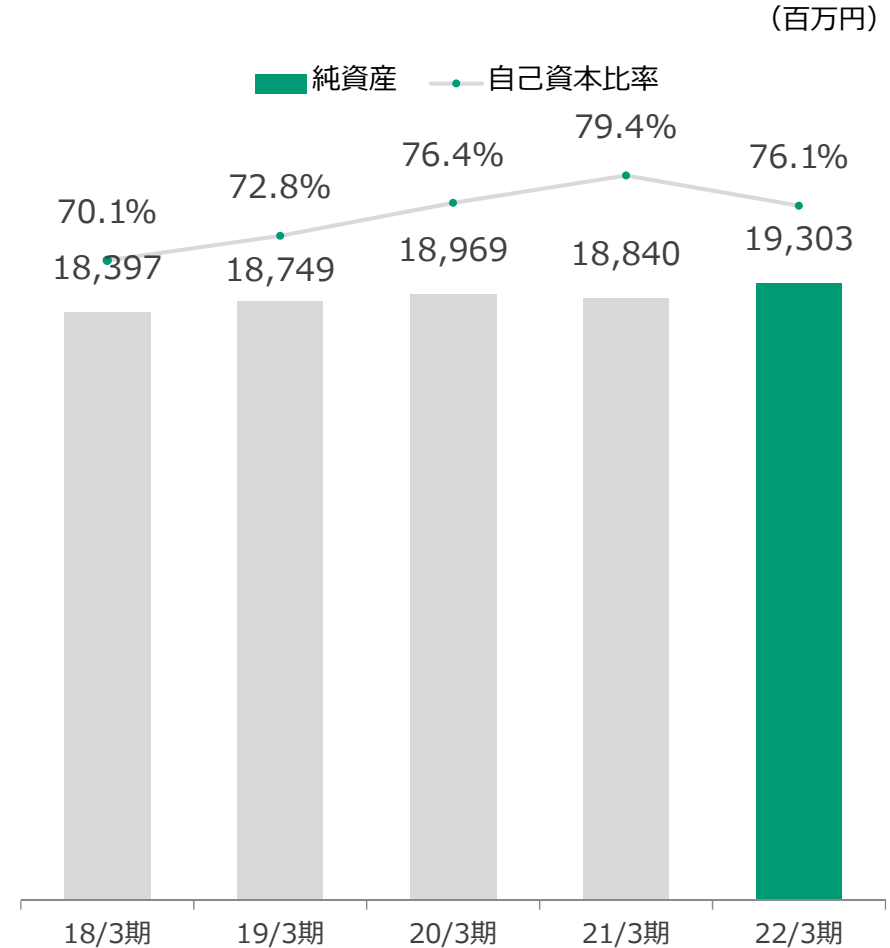


## 業績の推移 2/3

### 総資産



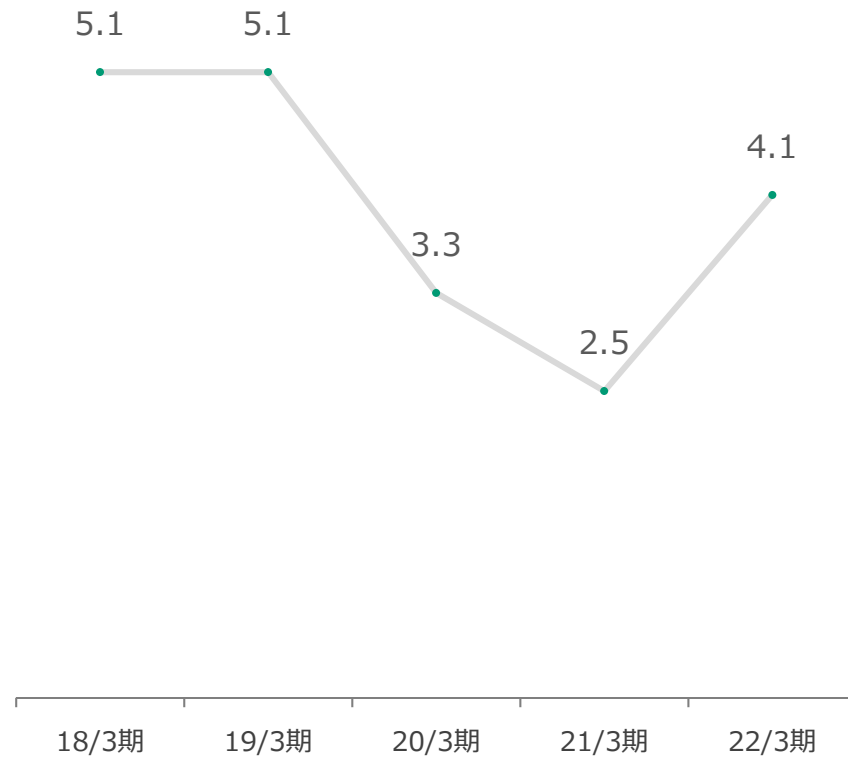
### 純資産



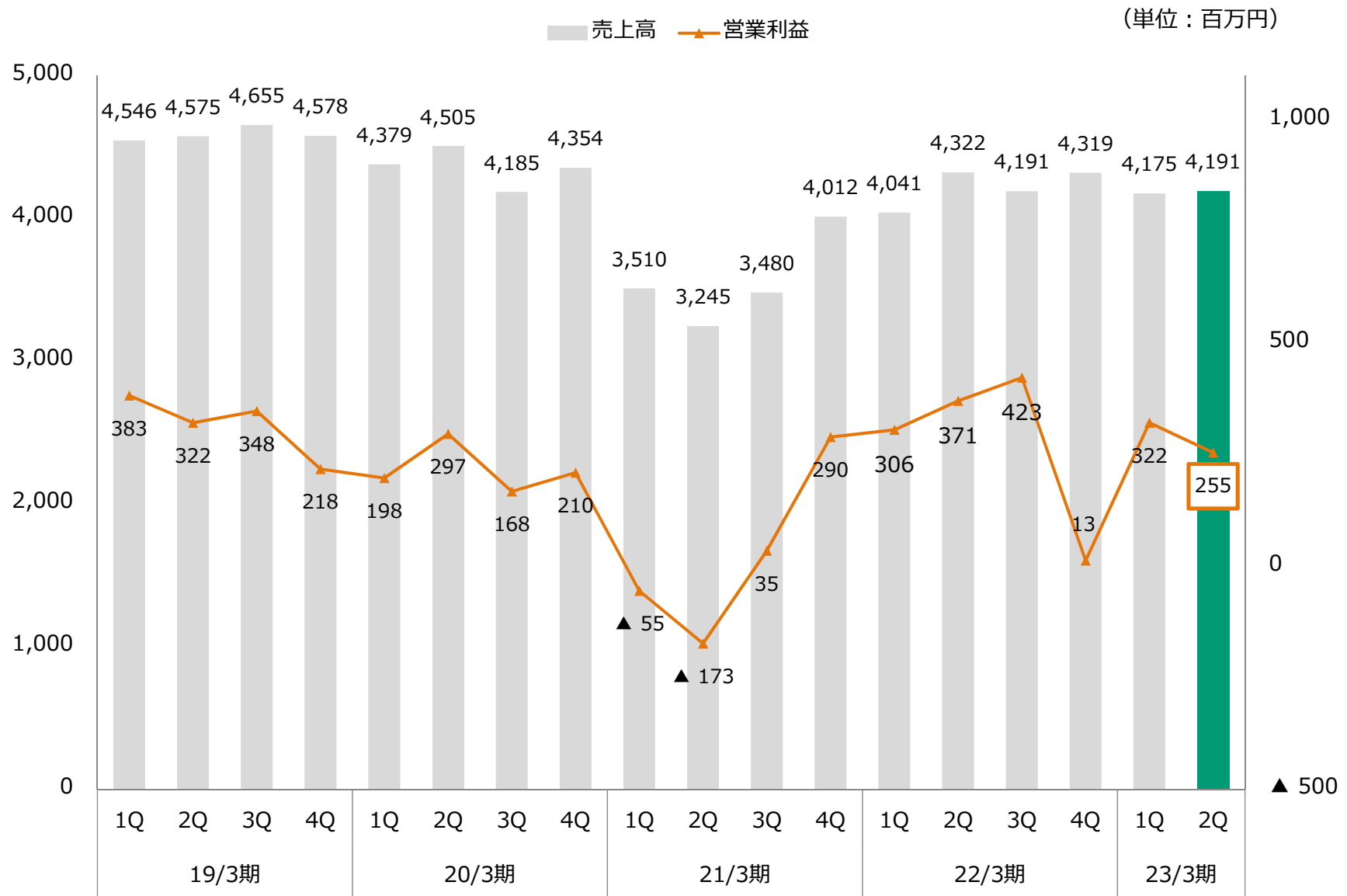
## 業績の推移 3/3

ROE

(%)



# 連結四半期業績推移





● 金型新聞  
2021年10月10日

## 順応力を持った企業目指す

経営効率を高め、  
事業領域を拡大



1958年生まれ、東京都出身。81年芝浦工業大学卒業後、富士ダイス入社。2014年取締役、18年常務、20年副社長、21年社長に就任し、現在に至る。国内の各製造拠点を生産技術などに従事した後、生産本部長や営業本部長などを務めた。趣味はサイクリング。座右の銘は「着眼大局・着手小局」。

### 富士ダイス 久保井 恒之社長に聞く

次世代自動車への転換の加速、コロナ禍による生活様式の変化、国際秩序の不安定化などによって、同社の顧客も大きく変化している。「持続的な成長のためは、従来の考え方に固執することなく、事業領域を広げていかなければならない」と変革の重要性を強調する。

今年4月、ダイスなど超硬合金製の耐摩耗工具や金型を手掛ける富士ダイス（東京都大田区、03-3759-7100）の社長に就任した。自動車産業の大変革など同社を取り巻く事業環境が加速度的に変化する中、「変化に対して順応力を持った企業を目指していく」と抱負を語る。

今年4月、ダイスなど超硬合金製の耐摩耗工具や金型を手掛ける富士ダイス（東京都大田区、03-3759-7100）の社長に就任した。自動車産業の大変革など同社を取り巻く事業環境が加速度的に変化する中、「変化に対して順応力を持った企業を目指していく」と抱負を語る。

昨年には新規分野を開拓する営業部隊を新設。営業ノルマを定めず、将来を目標とした企画や提案に注力させることで、「新しい成長エンジン」を創出していくという。自動車分野では「ターボ電池、酸性材料など次世代自動車に関連する部品の取り込みを狙う。また、自動車以外にもマイクロ流路やガラス成形品などの分野を開拓を進め、様々な分野への拡販を目指す。加えて、「国内の事業領域を広げつつ、海外事業も強化していきたい」とアジア地域を中心とした海外事業の売上拡大も視野に入れる。中国の販売拠点を増やす他、タイとインドネシアにある海外製造拠点の生産能力強化などを計画している。

また、変化に対応できる企業体質への転換にも取り組む。製造から開発、営業と幅広い部門を務めてきた自身の経験を生かし、「無駄を含め、筋肉質な企業体質に変革させていきたい」と意識を込め、生産面では外部コンサルタントを活用した生産現場の改善や生産拠点の再編などを検討している。その他、ITを活用した営業手法の導入や営業効率の改善も進めていく考えだ。

今年策定した中期経営計画では、営業利益率が2021年度見込みの約3・5%から26年度までに12・5%以上に引き上げる目標を掲げた。経営効率のさらなる向上に挑み、2023年度までにコロナ禍前の売上高170億円、26年度までには200億円を目指す。

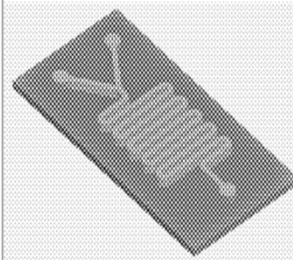
「当社の強みは、『粉末冶金技術』と『精密加工技術』の2つを生かしながら、自由で柔軟な発想で顧客のニーズに対応した挑戦を続けていく」。

● 日刊工業新聞  
2022年2月28日

## 離型容易なガラス成形金型

### 富士ダイス

マイクロ流路活用  
医療用分析デバイス向け



マイクロ流路を用いた分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析などを行う。臨床現場即時検査

マイクロ流路を用いた分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析などを行う。臨床現場即時検査

マイクロ流路（POCT）や血液検査など医療や化学分野で普及が進む。富士ダイスでは流路配列のピッチ精度100μm（マイクロは100万分の1）、流路断面の形状精度5μmを実現できる。また平板上に微細マイクロ流路を用いた分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析を行う「マイクロ流路のイクメーション」。

な窪みを施したマイクロウェルプレート型の加工も可能。一方、ガラスは高温で成形するため、金型のコア材料との熱膨張係数差で冷却時の割れや金型から取り外せないなどの問題が発生していた。同社は特殊ガラスの成形金型素材として開発した熱膨張係数の高い材料技術を採用し、こうした問題を解決した。

同社は事業領域の拡大を目指しており、マーケティング部門を新設。同部門では売り上げ目標を設けず、次の収益の柱となる事業を模索し、新製品・新事業の育成を目指している。今回の分析デバイス向け金型の提案もこの一環となる。

● 熊本日日新聞  
2022年4月21日



熊本製造所での冶金棟新設に向けて、南関町と立地協定を結んだ富士ダイスの久保井恒之社長（中央）ら。20日、県庁

富士ダイス熊本南関町に新工場  
EV需要増対応  
産業用工具・金型製造販売の富士ダイス（東京）は南関町の熊本製造所に、合金素材をつくるための冶金棟を新設する。20日、県庁で同町と立地協定を結んだ。既存の冶金棟が老朽化していることや、電気自動車（EV）の部品向け金型の需要が増えていることから、新棟建設で需要に対応する。

久保井恒之社長は「電気自動車のモーターやバッテリー向けの需要が増えており、付加価値の高い製品を供給していきたい」と述べた。半導体関連の金型や素材も製造しており、台湾積体回路製造（TSMC）が菊陽町に工場を新設することについて「今後、半導体関連の需要増も期待している」と話した。

を見込む。地元から新たに5人を雇用する。投資額は18億円。

ニュース記事は、スマートフォンやタブレット端末で右QRコードからご覧になれます。



## 免責事項について

---

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記載されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。